

地域歴史資料への新たなアプローチ

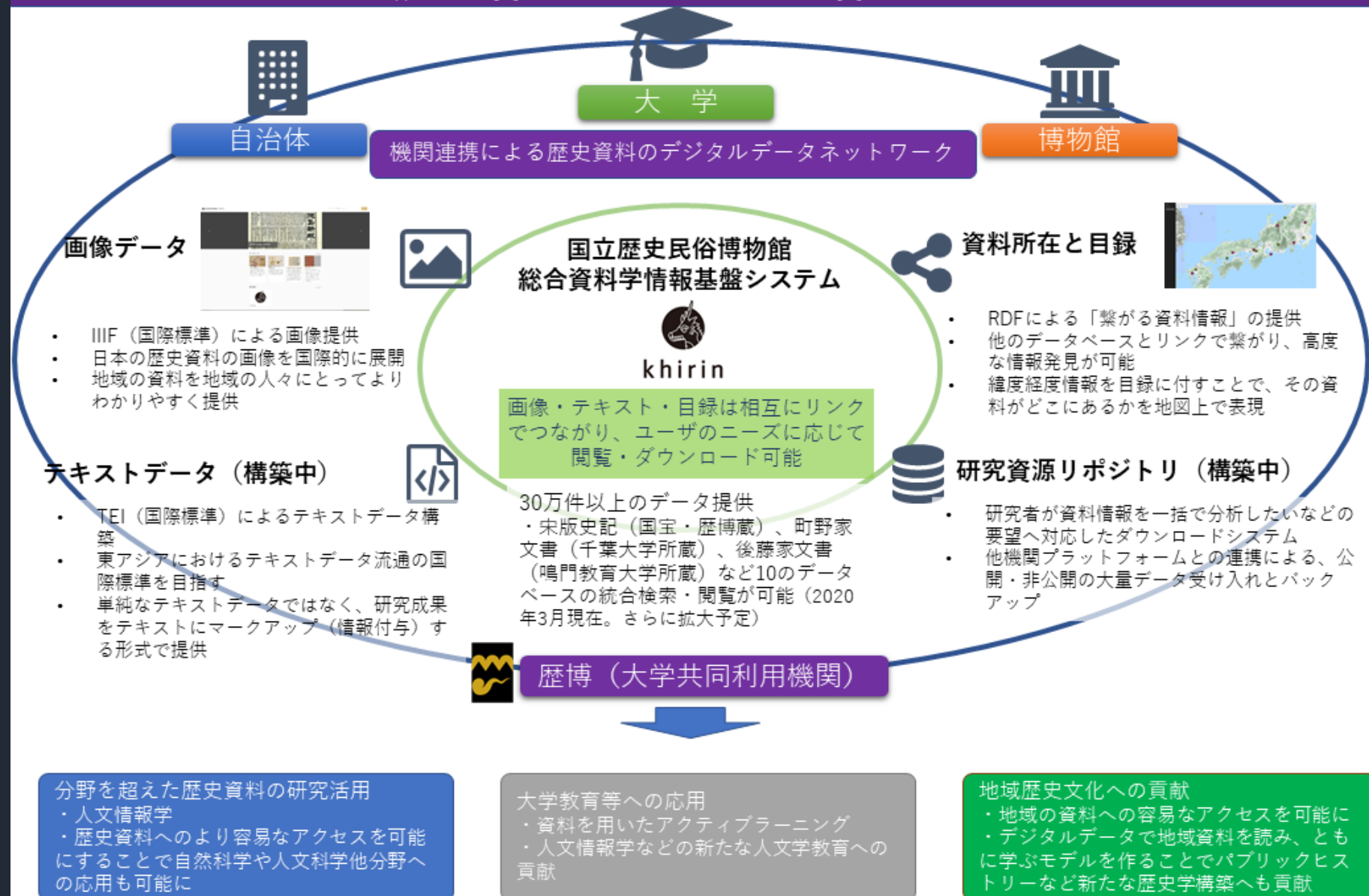
人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
後藤 真



歴博としての取り組み

- 総合資料学の創成プロジェクト（～2021年度）
- 歴史資料のデジタルネットワーク構築と異分野連携、そして地域展開
- khirin
- 期間中には、館内の資料に加え、2大学の公開データ、1大学の非公開データ、2自治体のデータ公開、2自治体の非公開データのアーカイビングができるようになった→さらに量を増やして展開へ

大学と自治体・博物館の歴史資料データインフラ 総合資料学情報基盤システム "khirin"



さらに今後に向けて

- 来年度からの6年間計画→策定中
- 統制語彙を活用したデータ連携
- データ量のさらなる増大
- 複数のサービスとの連携（ジャパンサーチ・みんなで翻刻）
- 研究データ（人文データ・自然科学データ）・地域の人々のためのデータ

課題

- 具体的なデータ構築コスト
 - 綺麗な写真でなくても良い…が
- どこまでの何を届けるか？
 - 目録・画像・テキスト
 - 「デジタルアーカイブ」であるならばよいが…
- さらに広く展開するためのアーカイブサービス
 - 地域の実態に即して考える必要性

論点提示として

- デジタルを活用したソリューション
- そのためのデータ蓄積が特に地域歴史資料には重要
 - ストックなしでフローを作ることには限界が
- 作り手と使い手という考え方の見直し
 - 今の社会では「全員が作り手であり使い手」
 - その中でどのように連携を作り、課題を解決していくかを考える必要がある